

長谷堂城跡公園の 風景と植物を楽しむ(春編)

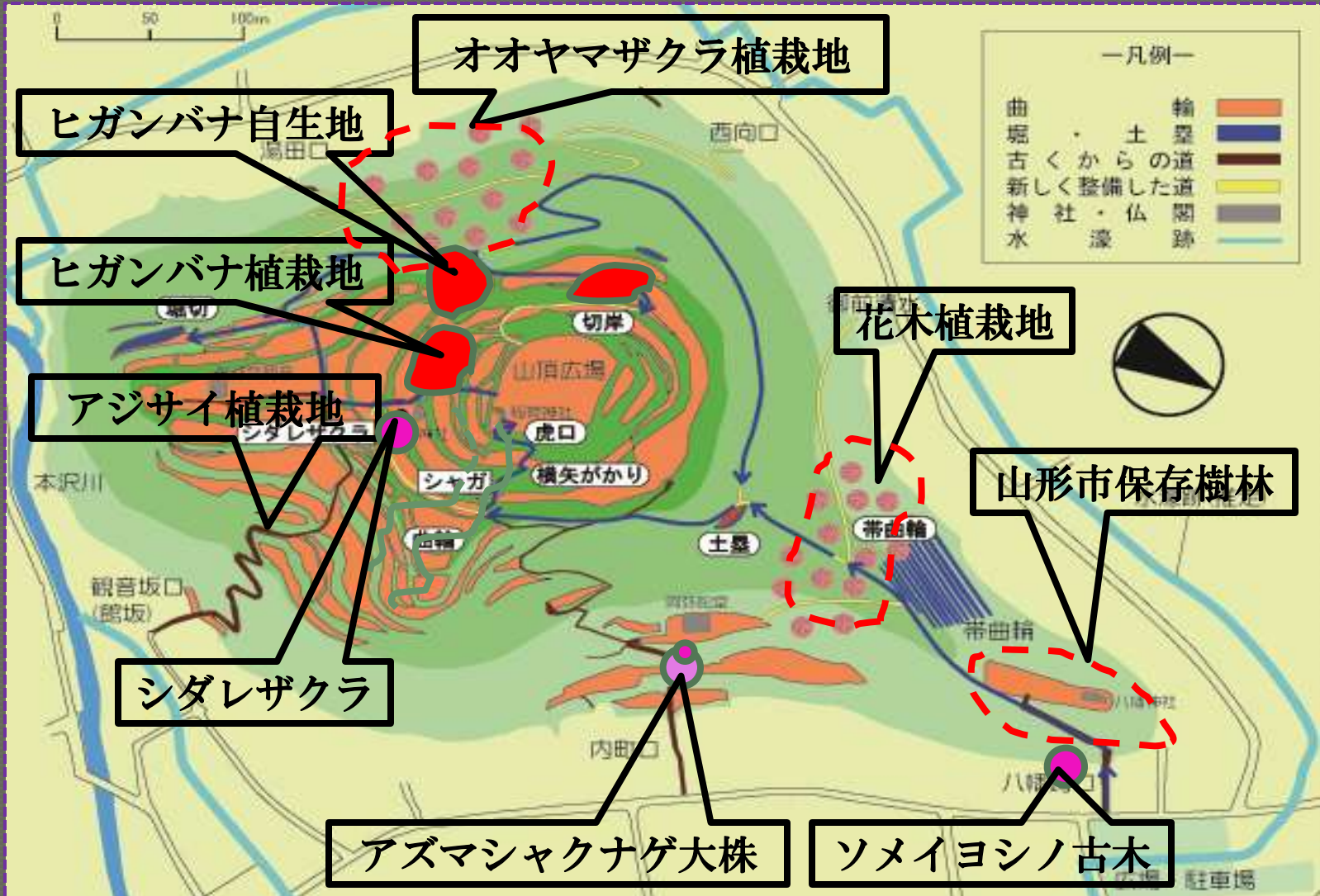


樹木医 枝松 吉男

長谷堂城跡公園の位置



長谷堂城跡公園の主な植物の位置



長谷堂城跡公園の風景の変遷

明和3年(1776年) 長谷堂城と周辺部



(「長谷堂八景」 俳軸絵図部分【個人蔵】)

昭和30年（1955年）頃の長谷堂城跡

樹木のないところでは、作物が栽培されていたという。この当時、長谷堂観音や八幡神社の周囲は聖なるところとみられていると考えられ、スギと思われる境内林が残されている。



（「本澤村誌、昭和32年」挿絵）

平成22年（2010年）6月の長谷堂城跡



長谷堂観音



平成18年度花木植栽地



八幡神社



八幡口の石鳥居から入る



八幡神社のソメイヨシノ (バラ科) 古木



胸高周囲2.42m 樹高15m 枝張15m
推定樹齡90年

山形市指定八幡神社保存樹林

康平5年（1062）源義家奥羽動乱のおり豊前宇佐八幡宮より分霊を勧請し、八幡宮を建立。最上義光が天正年間（1573～1591）に祈願所としたと伝えている。元和年間に長谷堂城廃城となってから村民の維持となり、明治維新後は村社となり、講中管理に移った。（山形県神社誌）



八幡神社保存樹林の概要



市保存樹林の代表的な樹木



モミ (右)	樹高23m	胸高周囲3.51m	枝張15 m
モミ (左)	樹高20m	胸高周囲2.31m	枝張12m
スギ	樹高20m	胸高周囲2.20m	枝張9m

長谷堂城跡公園の馬の背



山頂に至る馬の背状の尾根道左右どちらにも眺望が広がる。

馬の背からの東面の遠景



馬の背からの東側近景（花木植栽地）



平成18年11月 山形市合併50周年記念事業とし約130名のボランティア参加者が花木（サクラ類・モミジ類・コウヤマキ）を110本植栽した。地元では、今も維持管理をしている。

馬の背からの西側の遠景（清源寺）



大森山

清源寺

大森山の麓にある清源寺は、長谷堂城主坂紀伊守の菩提所として庇護を受けた。文化財としては県指定の坂紀伊守肖像画と県内で3番目に古い梵鐘がある。

馬の背からの西側近景（花木植栽地）



内町面と同じ日にボランティアにより花木を植栽した。

「長谷堂城跡公園を花の名所に！」

植栽事業参加者記念撮影



(H18年11月26日 内町・西向面)

馬の背のウワミズザクラ (バラ科)



この公園にはウワミズザクラが多く確認されている。
サクラとは見えないがサクラの名がついている。

ウワミズザクラ



5月頃、ブラシのような花（総状花）を着ける。ウワミズザクラの花序枝には数枚の葉がつくがイヌザクラには葉がない。



一つの花を良く見ると5枚の花弁と1本の雌しべと多数の雄しべがあり、サクラとよく似る。



未熟な青い果実を塩漬けに、熟した実を果実酒にする。香り（クマリン）を楽しむ。

馬の背のイヌザクラ (バラ科)



この公園には数本確認されている。木肌が白っぽいのでシロザクラともいう。(H22年5月22日撮影)

馬の背のイヌザクラ



イヌザクラは、枝（2年枝）の葉腋から花穂がでる。

ウワミズザクラの花軸の下部には葉がつく。



馬の背のホオノキ (モクレン科)



(H22年6月4日撮影)

馬の背のホオノキの花



(H22年6月4日撮影)

ホオノキの肌比べ



(H22年5月31日撮影)



(H22年5月31日撮影)

フジ (マメ科)



(H22年5月22日撮影)

ヒロハテンナンショウ (サトイモ科)



(H22年5月22日撮影)

菅沢丘陵と直江本陣跡



直江本陣跡

ケンポナシ (クロウメモドキ科) の群生地

ここにどうしてケンポナシが群生しているのだろうか。
右上の斜面に大木と思われる切り株が残っている。本公園内にはオニグルなどと同じような場所にケンポナシが生えている。



ケンポナシの花と実



7月頃五角形の星型をした花を着ける。蜜の香りに誘われていろんな虫が集まる。



ケンポナシの実。
茶色の果柄は梨のような味がするとか。

コゴメウツギ (バラ科)



ウツギ（空木）の名がつくがバラ科に分類
林縁によくみられる。
(H22年6月4日撮影)



マルバダケブキ (キク科) の群落



曲輪のような平坦地に生える。6月に開花。

シャガ (アヤメ科) の群落



曲輪の平坦地から斜面に生える。5月に開花。

曲輪のクヌギ (ブナ科)



最大級の規格 樹高18m
胸高周囲1.34m 枝張12m

曲輪の下斜面に生えるクヌギ



春日神社のシダレザクラ (バラ科)



番号1

番号2

番号4

番号3

(H22年5月6日撮影)

番号1と番号4のシダレザクラ



番号1

樹高15m 胸高幹周2.11m
枝張13m 推定樹齡210年

番号4

樹高10m 胸高幹周0.92m
枝張10m 推定樹齡90年

番号2のシダレザクラ



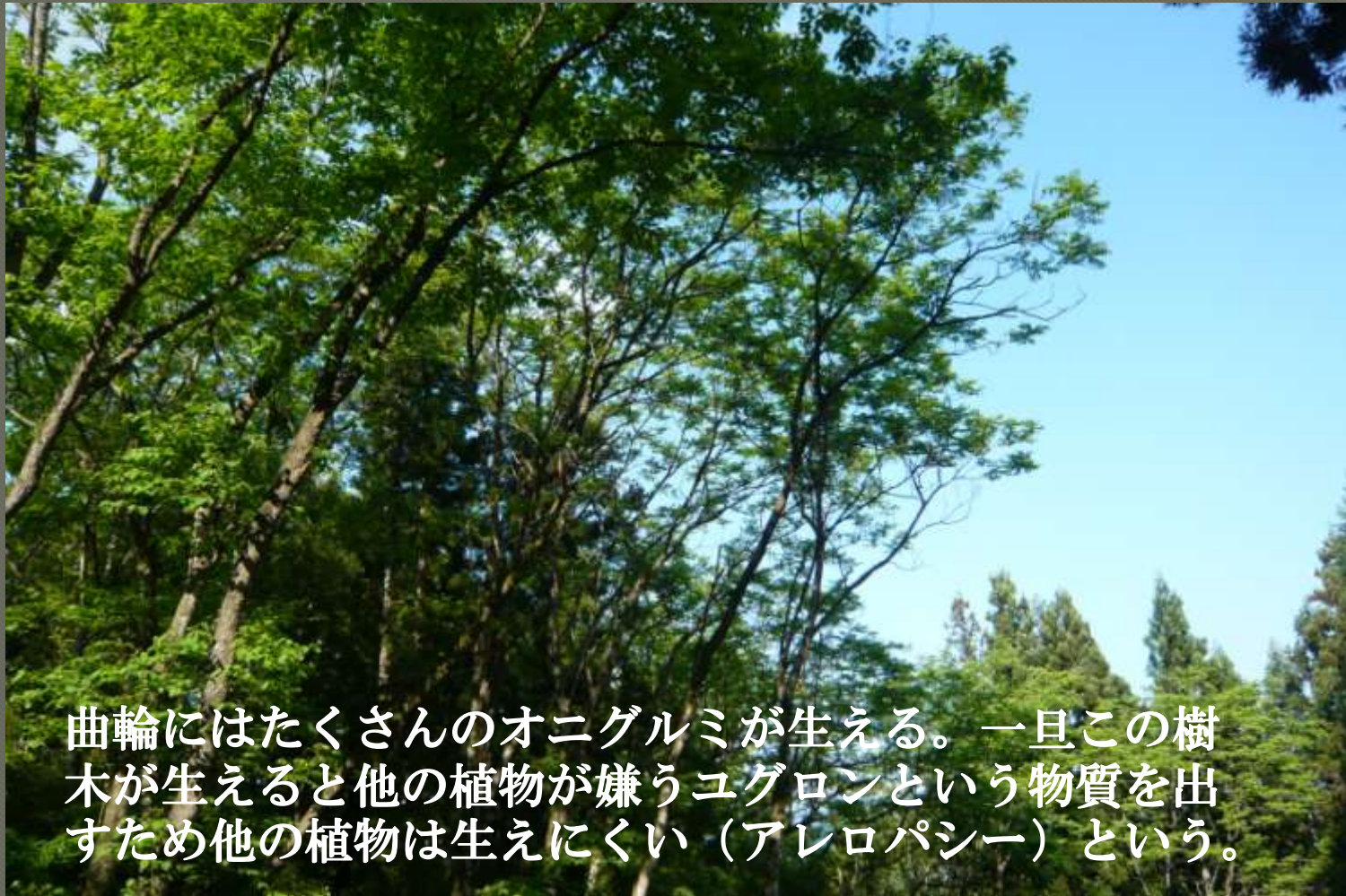
樹高18m 胸高幹周2.61m 枝張18m
推定樹齡260年

番号3のシダレザクラ



樹高15m 胸高幹周2.05m 枝張14m
推定樹齡210年

オニグルミ (クルミ科)



曲輪にはたくさんのオニグルミが生える。一旦この樹木が生えると他の植物が嫌うユグロンという物質を出すため他の植物は生えにくい（アレロパシー）という。

オニグルミの花と実



雌花(本年枝の先端につく)



雄花(前年枝の葉腋から垂れる)



クルミの実



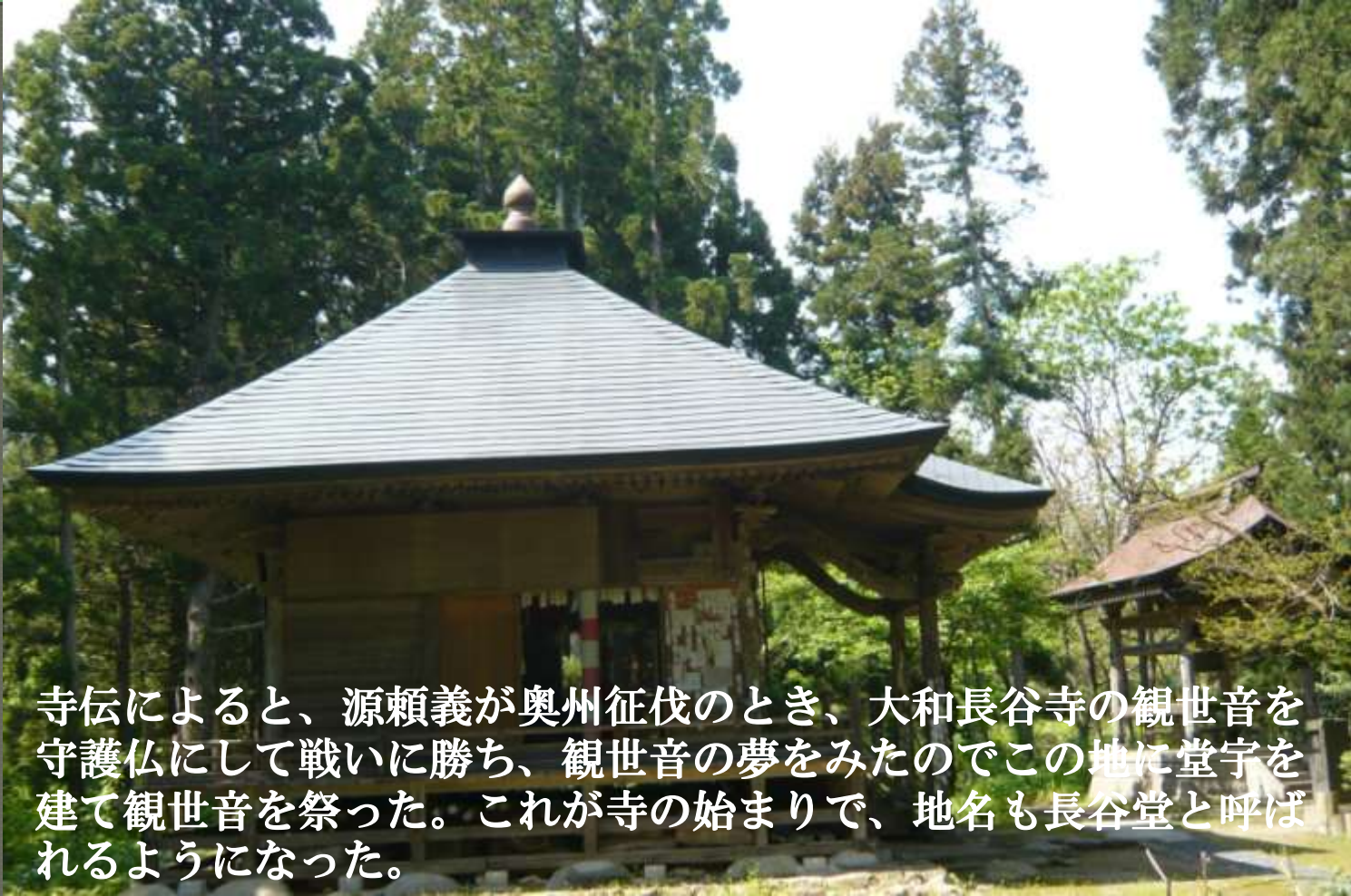
クルミの実

クサノオウ (ケシ科) の群落



H22年5月22日撮影

長谷堂観音堂 (最上三十三観音十二番札所)



寺伝によると、源頼義が奥州征伐のとき、大和長谷寺の観世音を守護仏にして戦いに勝ち、観世音の夢をみたのでこの地に堂宇を建て観世音を祭った。これが寺の始まりで、地名も長谷堂と呼ばれるようになった。

山頂のケヤキ (ニレ科)



曲輪法面に生える ケヤキ



曲輪と斜面の間に植えたように生えている。
山頂の下斜面にも同じように生えている。

エゾエノキ (ニレ科)



本公園にはエゾエノキが点在する。エノキもある。いずれも国チョウ“オオムラサキ”の食餌木である。近年オオムラサキを見た人は少ない。

ナラ類 (本公園内にはコナラとミズナラが両方生えている。)



本公園では最大級のコナラ
樹高18m 胸高周囲3.09m
枝張16m 推定樹齢160年

ヒガンバナ (ヒガンバナ科)

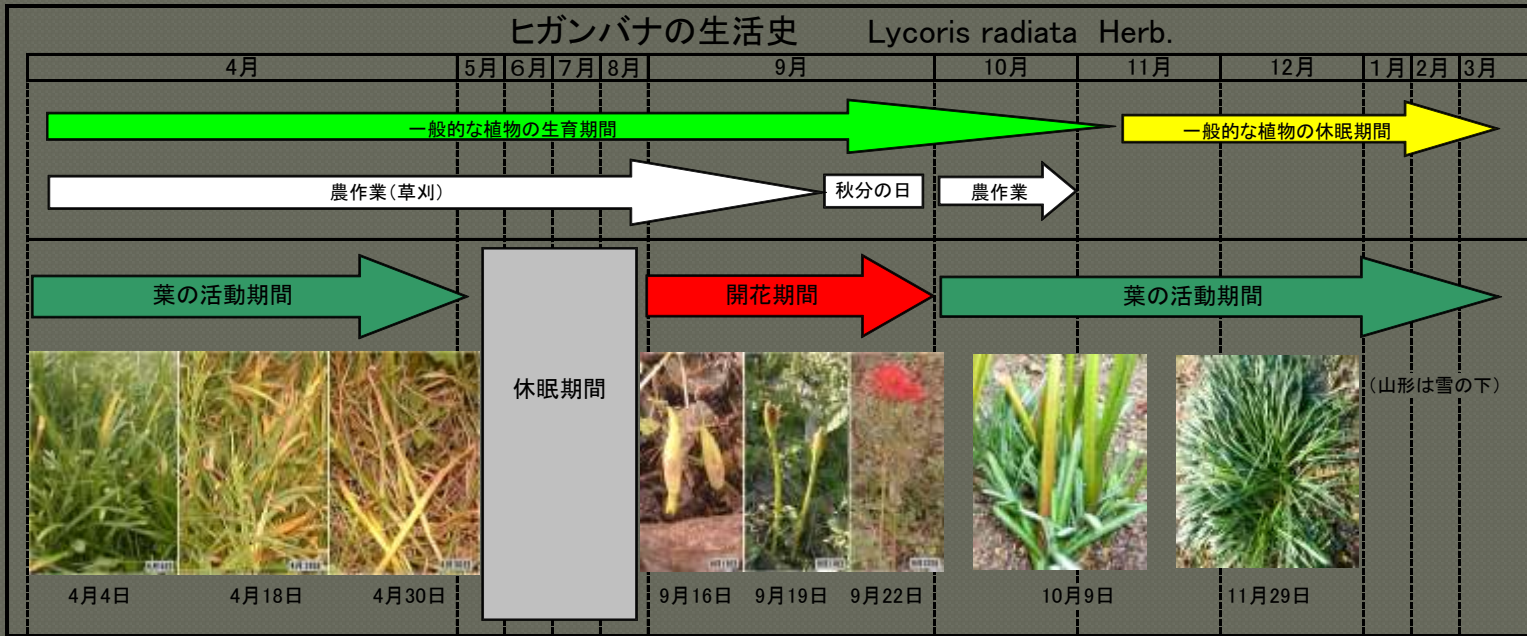


西向南斜面に生えるヒガンバナの群落

ヒガンバナは他の多くの植物とは違った生活サイクルをもって生き延びてきた。なぜか城山のところどころにこの花が生えていて彼岸のころに深紅の花を咲かせる。



ヒガンバナの生態



繁殖情報
 10球から15球を1株として移植する。ヒガンバナの発芽率が10から15球あたり1~2本と低いため(巾着田公式サイト)。

(作成H20.12.6 枝松)

H21 「長谷堂城跡公園を花の名所に！」

ヒガンバナ植栽事業

平成21年11月15日、地元のボランティア31名参加のもと曲輪に滝の山などから約13,000株を移植した。



H19 「長谷堂城跡公園を花の名所に！」 第 2弾 植栽事業



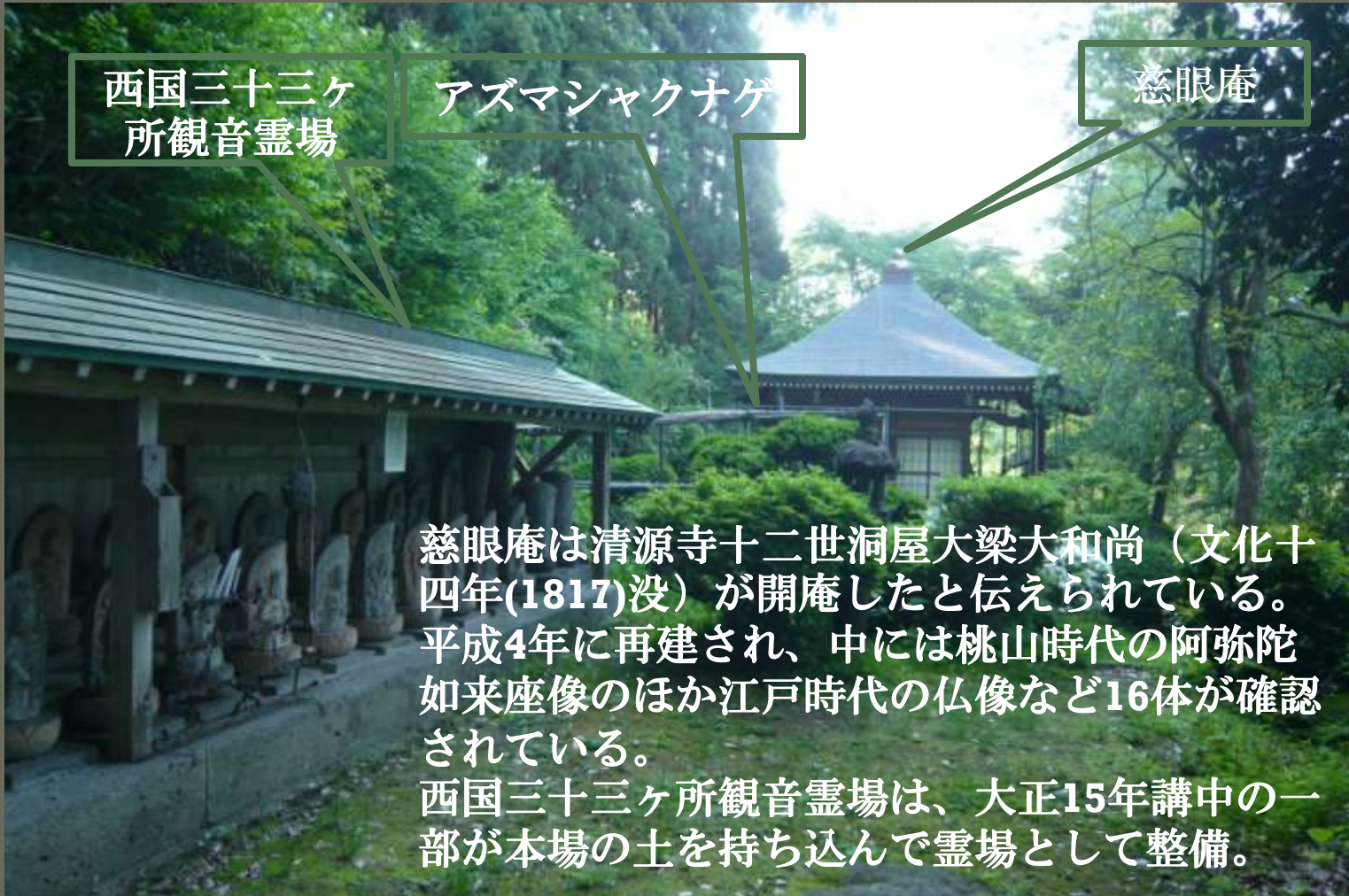
平成19年11月25日ボランティア参加者126名が未立木地に100本のオオヤマザクラを植栽した。

H19 「長谷堂城跡公園を花の名所に！」 第2弾 植栽事業記念撮影



(H19年11月25日 西向面)

慈眼庵と西国三十三ヶ所観音霊場



西国三十三ヶ
所観音霊場

アズマシャクナゲ

慈眼庵

慈眼庵は清源寺十二世洞屋大梁大和尚（文化十四年(1817)没）が開庵したと伝えられている。平成4年に再建され、中には桃山時代の阿弥陀如来座像のほか江戸時代の仏像など16体が確認されている。

西国三十三ヶ所観音霊場は、大正15年講中の一部が本場の土を持ち込んで霊場として整備。

慈眼庵のアズマシヤクナゲ



樹高2.5m葉張2.3m

観音口の アジサイ (ユキノシタ科)



最上三十三観音霊場十二番札所（長谷堂観音）の観音口入口から参道の両側に地元ではアジサイを植えている。東北斜面の日陰地はアジサイの適地。



観音口の鳥居からさようなら



「長谷堂城跡公園を花の名所に！」未来予想図

「長谷堂城跡公園を花の名所に！」 未来予想図

記号	名称
●	昨年植栽した付等と今年植栽する付
○	サクラ(自然又は過去に植えたもの)
●	フジの群生地
●	シヤブの群生地
—	開設園路
—	既設園路



本図は、本沢地区振興協議会が作成した図面をもとに長谷堂城跡公園管理協力会が作成しました。

ご清聴ありがとうございました。

